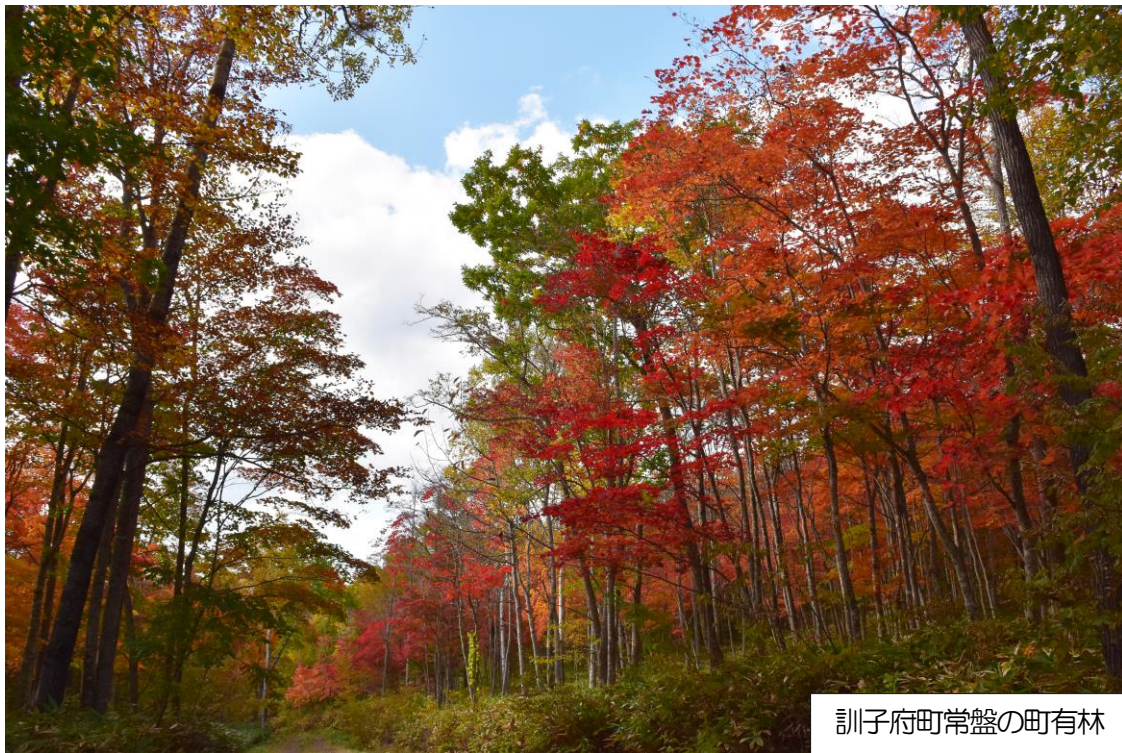


エコ・あぐり・タウン くねっぴ 応援団だよ

令和3年11月19日発行 NO.55

訓子府町の「ふるさと応援団」にご参加いただき、ありがとうございます。
皆さまと訓子府町を結ぶ便りにできればと考えております。

訓子府町の四季 ~秋季~



訓子府町常盤の町有林



北海道常呂郡訓子府町東町398番地

訓子府町役場企画財政課

Tel 0157-47-2115

Fax 0157-47-2600



今、話題沸騰！

「高校存続に向けて頑張る訓子府高校」

開校70周年を終えた北海道訓子府高等学校は令和2年度入学者が21名、令和3年度入学者数は12名と高校存続に向けた関係者の並々ならない努力により、現在まで留まっています。

北海道教育委員会は9月7日、公立高校配置計画で「北海道留辺蘂高校令和5年度募集停止」が発表され、翌日の北海道新聞には「留辺蘂高校募集停止に落胆」「機械的判断理解できぬ」と一面で報道されています。訓子府高校の生徒達も「高校がなくなったら寂しい」と動揺は隠しきれません。しかし、生徒達や教職員の頑張りには目を見張るものがあります。

地域を知る「くねっぴ学」では、町内視察や「コミュニティスクール」では、訓子府中学校の生徒と共に銀河農園での玉ねぎ、ジャガイモ栽培に汗を流しています。また、北海道新聞オホーツク版でも大きく取り上げられた、生徒作成のポスター「『届けたい』私たちが変わった理由」は圧巻です。



訓子府町も9つの支援策「教科書代金全額補助」「入学金支援」「バス定期代3分の2補助」「修学旅行支援」「給食支援」等支援しております。さらに留辺蘂地区や北見西地区生徒のために通学バスの運行も検討に入っています。私も10月14日に訓子府高校を訪問し、「未来ある高校生へ」と題して講演をさせていただきました。北海道訓子府高校の存続に向けた運動を学校や地域ぐるみで展開していますので、力強い応援を是非お願いします。



町長's Eye

応援団トピック

アート・タウン・プロジェクト

武蔵野美術大学と連携して、新たな作品が展示されました。

平成29年度より武蔵野美術大学と連携して、町の歴史等を彫刻作品で表現する事業（アート・タウン・プロジェクト）にて彫刻作品「HOME TOWN」がレクリエーション公園に展示されました。

制作者のプロフィール

1982年愛知県生まれ。2007年に武蔵野美術大学大学院を修了。自身の制作においては、「日常」から「非日常」へ横断する物の在り方の変化についての考察や、日常にある「表裏」を持つ物質や空間についての考察を軸にし、様々な二次テーマと合わせて創作活動を行なっている。

作品のコンセプト（制作者：杉浦 藍）

訓子府町にある農風景は、『開拓時代から現在へ』人々によって作られ、受け継がれてきた訓子府町の暮らしの象徴である。そして「家族や友だちと過ごす・少し休む・立ち止まる・また戻ってくる」場所。人々にとって日常であり、故郷となる。

公園に置かれた5つの形は次世代へと時間を積み重ねてきた訓子府町の農地を象^{かたど}る。白樺の木陰に佇むそれらは訪れる人々にとって立ち止まり、休み、家族や友だちと時間を過ごす場所となり、また戻ってくることを想いながら公園の一風景となる。

1. 制作にあたってこだわったところを教えてください。

公園に設置する空間がどのように見えるのかについてこだわりました。

2. コンセプトである町の広大な農地を表現する上で苦労したところはどこですか。

小さいサイズの模型から大きな実物体になったときの見え方の差に苦労しました。

3. 見所（ポイント）はどこですか

日が高く、晴れていると作品の色々な表情が見えるところです。



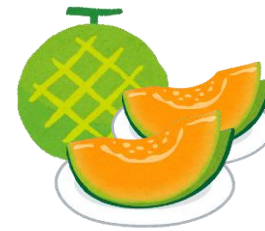
彫刻作品「HOME TOWN」

No.54実施「特産品をプレゼント」の結果を公表します！

前回（No.54）実施の企画にたくさんのご応募をいただきありがとうございました。当選者の5名様にアンケートにご協力いただきましたので、団員の皆様にも結果の一部を公表します。

○今回当選した特産品の感想を教えてください。

- こんなに美味しいメロン初めて食べました。ふるさと納税で是非と周りに伝えました。
- 大玉で立派でした。
- 風味が良く甘味もちょうどよくて美味しかったです。



○くんねっぴメロンをふるさと納税の返礼品に選びたいと思いませんか。

- 5名の皆様から「思う」とのご感想をいただきました。

～「くんねっぴメロン」の歴史～（くんねっぴ再発見物語より）～

メロン栽培は、昭和38年（1963年）に農家の生活改善の一環として女性層を中心にメロンの栽培を開始したことが始まりです。

同45年（1970年）に稲作の生産調整をきっかけとしてメロン栽培農家が増え始めたことで「くんねっぴメロン」が北見市場に初出荷され、大きな話題となりました。

その後、積極的にメロンが栽培されるようになり、同48年（1973年）には訓子府町メロン振興会が設立され、同60年（1985年）には玉ねぎやビートの育苗用ビニールハウスの有効活用、メロン専用ハウスが建てられるようになり、露地栽培からハウス栽培へと発展していきました。

同10年（1998年）には振興会員外も含め約130戸で19ヘクタールの栽培でしたが、その後作付面積が減り、令和2年（2020年）では42戸で約5.3ヘクタールまでに減少しました。メロン栽培の後継者難などによりですが、メロン振興会ははじめ農協、町は、個数減の歯止めとブランド力強化に努めています。

